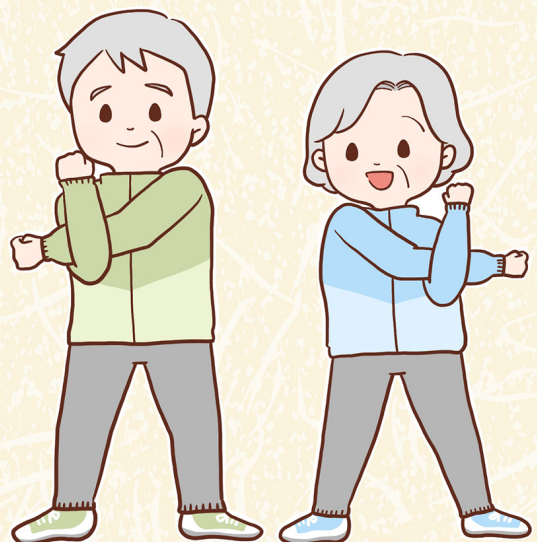


田舎の介護事情

GW、愛媛県の実家に帰省してきました。94 歳、要介護 1 の母に会うためです。母は親戚付き合いを大切にしていますので、帰省する時は「親戚に挨拶に行きなさい。親戚を大切にみなさい」といつも言われ、帰省のたびにお土産を持って挨拶に行っています。長く愛媛の地元を離れ、親戚と話をする機会もなかったので、最初の頃は挨拶程度だったのですが、少しずつ話をするようになってきました。その親戚も高齢者ばかりとなり介護生活が続いていますので、その様子を紹介します。

一軒目の親戚は父の姉が嫁いだ家で、姉は昨年 98 歳で亡くなりましたが、私の従兄弟にあたる息子夫婦が住んでいます。77 歳になる従兄弟は、ここ 15 年ほどの間に 3 回脳梗塞になり、歩行が出来ず車椅子の生活で、両手は拘縮し、言語障害もあります。認知症は無いようで、言葉はわかりにくいものの会話ができるので、夫婦で一緒に野球などテレビのスポーツ番組を見て楽しそうに会話をしておられます。訪問診療、訪問リハビリ、訪問入浴を利用しながら奥さんがお世話をしておられます。デイサービスを一度利用されたのですが、高齢者が多い、女性が多い、認知症の人が多く会話ができる人がいないという理由で、本人が行きたくないと言われ今は利用していません。

奥さんは少しでも歩けるようになってほしいと、訪問リハビリの方から教えてもらったリハビリメニューを、毎日一緒になって実施しています。「一緒にすると私も運動になるから」と明るく言っておられます。



介護疲れで大変だろうなと思うのですが、訪問すると玄関に、牡丹と芍薬の花が大きな花瓶に生けてあります。「綺麗ね!!」と言うと、「うちの畑に沢山咲いているから、よかったら見て行って」と言われました。翌朝、「お花の写真を撮らせてください」と連絡して畑に行くと、家の敷地より広い畑に、牡丹、芍薬、菖蒲、紫蘭（しらん）、金盞花（きんせんか）、マーガレット、他いろいろな花が咲き誇り、まるで花の回廊のようになっていました。片隅のサクランボの木には小さく可愛らしい赤い実がたくさんなっています。「食べてもいいよ」と言われ、とって食べてみると甘くて美味しい。野菜作りは苦手なんだけど、子供たちに送ると喜ぶので少しだけ作っていると。



奥さんは、「朝、一段落してここに来ると、ほっとするのよ。そして草ひきをすると無心になって、いいストレス解消になるの」と笑って言われました。子供たちは松山や東京にいますので、一人で介護をしなければいけませんが、明るい性格でストレス解消も上手にしながら、夫とも仲良く過ごしておられる様子に、こちらほっとします。

翌朝、あの小さく可愛らしい真っ赤な「さくらんぼ」を丸いパックに入れて届けて下さり、感謝・感激でした。



もう一軒は、祖母の姉の嫁ぎ先で、父がその息子さんと従兄弟同士でとても仲良くしていたお宅です。その従兄弟のご子息夫婦は千葉県に住んでおられたのですが、定年後、一人暮らしのお父さん（父の従兄弟）も高齢になられたので、愛媛に帰ってこられました。

ご子息は血液のがん リンパ腫で、要介護状態が 1 年ほど続き、昨年 11 月に亡くなりました。亡くなる前の半年ほどは、歩行もできなくなり、奥さんと娘さんで介護をされました。訪問介護の利用も検討されたのですが、本人が拒否され、訪問看護以外は全て家族でお世話をされました。

今回伺った際、「介護は大変だったけど、いなくなるととても寂しい。それを癒してくれるのが、野菜やお花なのよ。寂しくてつらい時は畑に行って草ひきをするとう無心になれて、気持ちの切替えができ元気になって家に帰れるの」と、優しい笑顔で話しておられました。

翌朝、採れたてのイチゴ、スナップエンドウ、ニューサマーオレンジ（みかん）を届けてくださいました。感謝・感激です。採れたてのイチゴはヘタがしゃんとして、赤くツヤツヤしていて、さっそく頬張ると、とても甘くて美味しかったです。



親戚にこんなに明るく、しなやかに介護と向き合いながら過ごしている方々がおられることに、心がほっこりして、母の親戚を大切にしてくださいという言葉が心に響きます。



垣内 イスズ